

各位

上場会社名	石垣食品株式会社
代表者	代表取締役社長 石垣 裕義
(コード番号	2901)
問合せ先責任者	経理部経理課 課長 小西 一幸
(TEL	03-3263-4444)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年10月27日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	568	8	8	11	3.82
今回修正予想(B)	541	△4	△3	△1	△0.54
増減額(B-A)	△27	△12	△11	△13	
増減率(%)	△4.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	494	△28	△25	△23	△10.43

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	568	3	1	6	2.02
今回修正予想(B)	541	△10	△11	△6	△2.07
増減額(B-A)	△27	△13	△13	△12	
増減率(%)	△4.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	494	△30	△29	△26	△11.58

(注)上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確実な要素を含んでおります。
実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

修正の理由

(1) 単独

第3四半期末までは概ね計画通りに推移したものの、第4四半期において、主力の麦茶およびビーフジャーキーの売上が計画に届かなかったこと、また今期において資本・業務提携を行った神戸物産に対して供給開始した共同開発商品の販売数量が見込みを大きく下回ったこと、及びそれらに伴って第4四半期の製造原価削減が計画通りとなりませんでした。当社は従来から工場閑散期に当たる第4四半期の採算性の改善が課題となっており、当期は健康茶の新商品であるごぼう茶が好調な立ち上がりを見せ、また神戸物産との提携に伴う共同開発商品の生産も開始したことで、従来に比べれば格段に採算は改善したものの、計画や黒字化には及ばず、売上高、損益とも計画を下回ることとなりました。

(2) 連結

連結対象会社である中国子会社は、生産するほぼ全商品を親会社向けに供給する生産子会社であるため、単独の業績予想の修正に準じ、連結予想を修正いたします。

以上